地域人材による地域主導の公共交通利用促進に関する研究
（第7弾：高校生編）
―地元・三重総合高校へ通う高校生のバス利用促進に関する考察―

大分大学経済学部経営システム学科交通論研究室　濱渦　蓮・岡　将平・笠原　義朗・河野　泉・佐伯　琉圭・友田　龍太郎
大分県立三重総合高校メディア科学科　（指導教諭：秋月　大輔）
豊後大野市まちづくり推進課　古庄　英之・衛藤　宏樹・神田　尚侑・赤嶺　哲平
日本工営株式会社福岡支店　高峯　高・園田　一樹
大分大学経済学部門　大井　尚司

本研究の背景と目的

【研究背景】
地域交通を取り巻く環境は大変厳しい
・利用者減少による赤字路線の増加
・サービスを受けることのできない住民の増加
↓
地域交通に求められる役割を果たせていないのではないか

振り返ると実は使っていない

三重総合高校に通う生徒を対象の利用促進事業
【高校生・大学生双方の目線で見て】
利用者を取り込む案の検討
高校生にバス利用を促す
☞（結果的に）地域交通維持につなげる

調査動機と対象

大学生の分析
（昨年までの反省）
・地域でバスが使われていない
・実は高校生がバス使っていない
↓
（今年度）
通学手段をバスに移行するには？
・どれだけの学生がバスを利用しているか
・通学手段をバスに移行するためにはどのような改善が必要なのか？

高校生の分析
（昨年までの事業）
・イベントは一過性の効果
・コミュニティバス以外にも交通問題多い
↓
（今年度）
「利用者の視点で身近な交通問題について考える」
→議論の中で・・・
「路線バスが不便」
～いろんな提案考えるも
「乗客数が増える見込みがなければ投資できない」（事業者との対談）

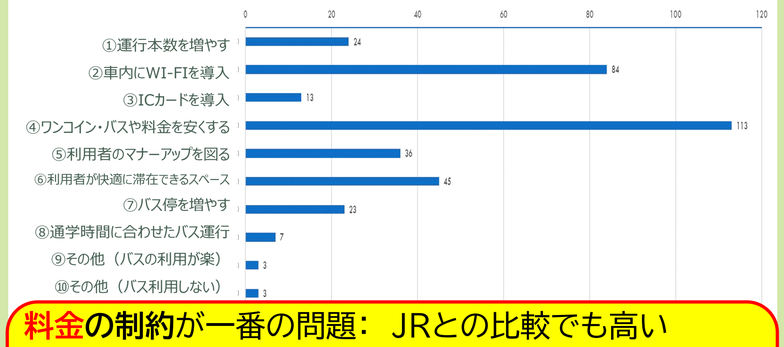
肝心の高校生は何で通学？

三重総合高校全校生徒へのアンケート調査実施

	バス	JR	自家用車	自転車・原付	徒歩	その他
犬飼町		13	8		3	10
三重町	1	1	26	2	27	20
大野町			11	2	1	
朝地町		11				
千歳町	2	1	2			1
清川町		6				
緒方町		4	4			
他（市外）	6	93	8		1	1
総計	9	129	59	4	32	32

◎　自家用車送迎が多い　←　周辺道路の安全問題（送迎車両の乗降）
○　JRがある地区はJR利用：　料金、時間、便数の面からこれは仕方ない
◎　バスしかない大野町でバス利用ゼロ　←　バス路線も存続危機

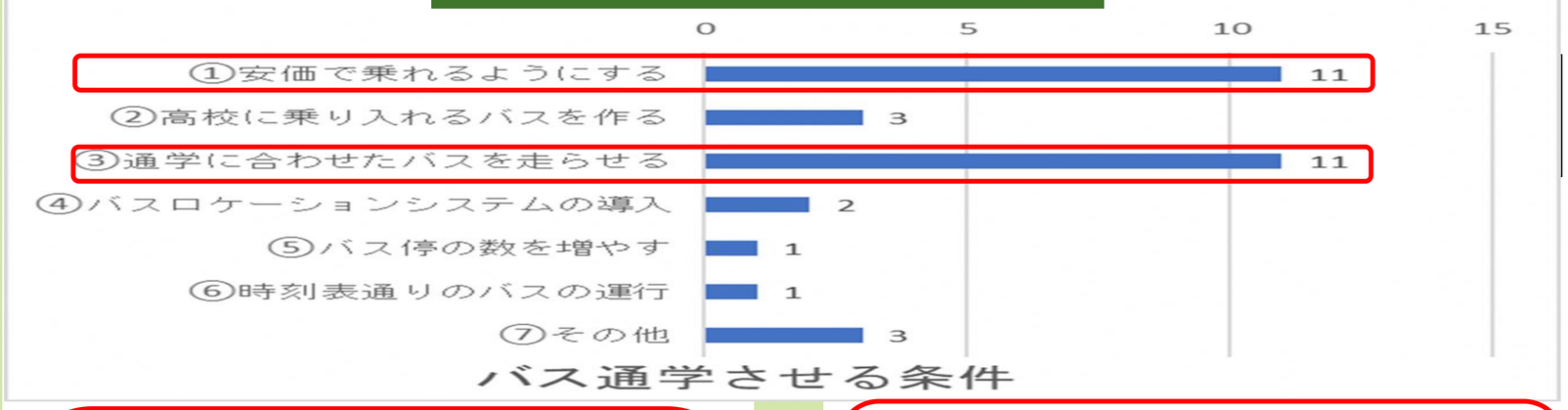
対象を**大野町**に限定：「広く浅く」より「狭く深く」



料金の**制約**が一番の問題：　JRとの比較でも高い
利便性の面での改善も必要：　ダイヤ、待合環境、車内
◎潜在需要の把握、実績につながる取り組みの提案要

課題に対する提案1 ―ダイヤ改定―

保護者（在大野町の高校生）アンケートより



現状のダイヤ

三重監督署前	16:46	18:14
市場	16:47	18:15
	↓	↓
道の駅おおの	17:16	18:44
田中	17:17	18:45

１７時台に便がない
部活後ではバス乗れない
～下校時間とのミスマッチ～

高校生の下校時間と部活

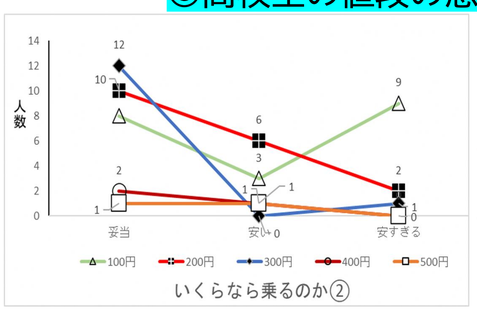
部活動	生徒数	割合
部活に入ってない	75	28%
部活に入っている	192	72%

帰宅時間	生徒数	割合
17時台	20	10%
18時台	50	26%
19時台	104	54%
20時台	14	7%

16時台、17時台の増便
部活動をしていない学生が利用しやすくなる
＋
19時台のダイヤ新設
部活動を行う学生が部活終了後でも利用できる

課題に対する提案2 ―料金面での優遇―

料金への不満は時間帯と同じぐらい大きい
↓
◎高校生の値段の感覚は？



200円／片道ぐらいが妥当
（月18日だと7,200円／月）
定期代19,140円／月
→親には負担？

◎いくらなら払える？＝保護者意見

5,000円／月程度が妥当
出せて1万まで
↓
この価格になんとか近づけたい

学生限定エリア定期券の提案

- **家庭の負担軽減効果**
  高校生の負担感7,200円⇔家計の負担5,000～1万円、を調整し設定
  親は送迎が不要になる：ガソリン代等の節約、学校周辺渋滞緩和
- **高校生の市内外出範囲拡大**
  エリア内自由なので買い物等にも使える
- **意識の変化を促す**
  バス会社の意識の変化　・・・　高校生が一生懸命取組んでいるから…
  高校生の意識の変化　・・・　友だちが取組んでいるから…
  様々な関係者に利用促進に向けた連携・協力を促すきっかけにつながる。

まとめ

豊後大野市全体で便利で安価な地域交通を実現し利用者を取り込む
↓
地域交通に求められる役割を果たすことにつながる

◎さらに、利用を促進するための取り組みを実施中・・・
バスへのラッピング、エリア定期の販促
（チラシ、動画、LINEスタンプ、高校生への宣伝）
・・・来年のJCOMMで発表予定です